

# 筑波大学附属大塚特別支援学校 代表授業

## 小学部 生活科 学習指導案

日時	2024年2月9日(金) 10:15~11:00
対象	小学部3・4年 つき組 (男子4名・女子4名)
場所	小学部つき組教室
授業者	森澤亮介(T1) 原田薫(T2) 小林和佳(T3)

単元名	ぱんをつくろう ふりかえりをしてみよう
-----	---------------------



### 〈小学部教育目標〉

- (1) 他者と関わりながら様々な活動に参加し、きまりやマナーを守って生活する。
- (2) 基本的な生活習慣を身につけ、主体的に活動に取り組む。
- (3) 様々な体験を通して習慣や知識を身につけ、「思い」や「願い」をもつ。

# I. 単元計画

学部・年/組	教科等	時数（想定）	実施時期	作成者
小学部つき組3・4年	生活	13 時間	1月～3月	森澤

## 1. 単元名

ばんをつくろう ふりかえりをしてみよう
---------------------

## 2. 単元の構想

(1) 学習者の興味・関心 (児童・生徒観)	12、1月は高等部の生徒が行っている作業学習の体験を行っており、あいさつやきまりを守ることの大切さを学習してきた。体験で製作した製品を卸す店にも触れ、公共交通機関を使って店に行くことについては見通しをもち楽しみにしている児童もいる。これまでの学習を通して2つ並べた写真や動画を比較するような発問に対して答えることができるようになってきている児童もいる。
(2) 学習活動・教材 (単元・題材観)	前単元の「しごとたいけん」において場所の違いを感じたり、適切な態度が表出できるようになってきたりしている。パン作りという子どもたちの動機づけが高い活動を通して、パンを作るために必要な個々の目標が分かり、目標に対して自分の行動を振り返り、修正点が気付けられるようになってほしい。
(3) 単元の意義・展望 (指導観)	個々の目標と目標に対する具体的な行動を答えることができるようにする。 できなかった点も振り返ることで児童が自信をなくすことがないように、「こうすればできた」という修正点に注目できるような教材を準備する。

## 3. 単元目標（単元全体に関わる内容）

単元を通して目指す子どもの姿		
自分自身の成長を振り返るための基礎的な力を身につける。 できる、できないを比較する 難しいことやできなかったことでも修正する方法を考えるための素地を身につける。		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>地域に関わる活動を通して、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる。</p> <p>【小(3)】【特:オ】 公共物や公共施設を利用する活動を通して、身の回りにはみんなが使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる。</p> <p>【小(4)】【特:ケ、コ】 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる。</p> <p>【小(8)】 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる。</p> <p>【小(9)】</p>	<p>地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができる。</p> <p>【小(3)】【特:オ】 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができる。</p> <p>【小(4)】【特:ケ、コ】 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。</p> <p>【小(8)】 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができる。</p> <p>【小(9)】</p>	<p>地域に関わる活動を通して、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。</p> <p>公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする。</p> <p>自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、進んで触れ合い交流しようとする。</p> <p>自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとする。</p>

## 4. 指導計画

次	小単元名	時数	学習活動
1	しごとたいけん 振り返り	1	12月、1月の学習の復習をする。 製品を卸している場所を知る。 高等部の教員に検品してもらう。
2	しつもんをかんがえよう	1	外部講師（パン屋さん）への言葉遣いや態度を考える。 パン屋さんに聞きたいことを考える。
3	ばんをつくろう (3/3 本時)	3	外部講師と一緒にパンを作る。 目標に対しての行動を振り返り、できたことや修正点について考える。
4	ルールやマナーをかんがえよう	2	これまでの生活経験から公共交通機関やお店を利用する際のマナーを考える。
5	おみせにいってみよう	4	公共交通機関を利用し、実際に店に行く。 製品を納品したり、商品を購入したりする。
6	マナーをまもれたかな (振り返り)	2	お店に行った様子を写真や動画をみて振り返る。 発表活動を通して、体験したことを人に説明する。

## 5. 単元の評価規準

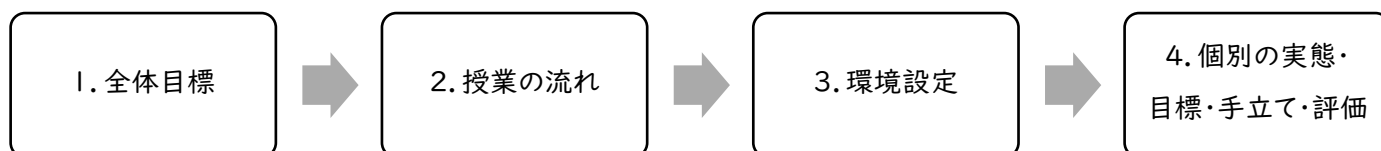
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域に関わる活動を通して、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かっている。	⑤地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えている。	⑨地域に関わる活動を通して、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。
②公共物や公共施設を利用する活動を通して、身の回りにはみんなが使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かっている。	⑥公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりしている。	⑩公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用している。
③自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かっている。	⑦自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。	⑪自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、進んで触れ合い交流しようとしている。
④自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かっている。	⑧自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えている。	⑫自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとしている。
参考 特別支援学校学習指導要領		
<p>オ人との関わり</p> <p>[1段階] (イ) 身の回りの人との関わり方に関心をもっている。</p> <p>[2段階] (イ) 身近な人との接し方などについて知っている。</p> <p>ケきまり</p> <p>[1段階] (イ) 簡単なきまりについて関心をもっている。</p> <p>[2段階] (イ) 簡単なきまりやマナーについて知っている。</p> <p>コ社会の仕組みと公共施設</p> <p>[1段階] (イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などに関心をもっている。</p> <p>[2段階] (イ) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知っている。</p>	<p>オ人との関わり</p> <p>[1段階] (ア) 教師や身の回りの人に気付き、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとしている。</p> <p>[2段階] (ア) 身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとしている。</p> <p>ケきまり</p> <p>[1段階] (ア) 身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとしている。</p> <p>[2段階] (ア) 身近で簡単なきまりやマナーに気付き、それらを守って行動しようとしている。</p> <p>コ社会の仕組みと公共施設</p> <p>[1段階] (ア) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとしている。</p> <p>[2段階] (ア) 教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとしている。</p>	<p>[1段階] 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりしている。</p> <p>[2段階] 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりしている。</p>

## 6. 単元計画の評価(次年度に向けて) A 概ね妥当 B 要検討

時数：A 概ね妥当 B 要検討( )	目標設定：A 概ね妥当 B 要検討( )
題材：A 概ね妥当 B 要検討( )	教材・環境設定：A 概ね妥当 B 要検討( )

## II. 本時 (3/3時間)

※本指導案は、下図の順で表記しています。



### 1. 本時の全体目標

資質・能力	内容
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じて言葉や身振りなどの伝え方があることに気が付く。(③)</li> <li>・これまでの学習(小麦袋バッグ・パン作り体験)に関わる個々の目標やきまり対して写真や動画を確認し、「できた・できなかった」を答えることができる。(④)</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じて言葉や身振りなど伝え方を選んでいる。(⑦)</li> <li>・きまりに沿ってできたかや難しかったか、また、できるようにするためにはどうすればよいかを考え、言葉や動作で表現する。(⑧)</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等	

### 2. 授業の流れ

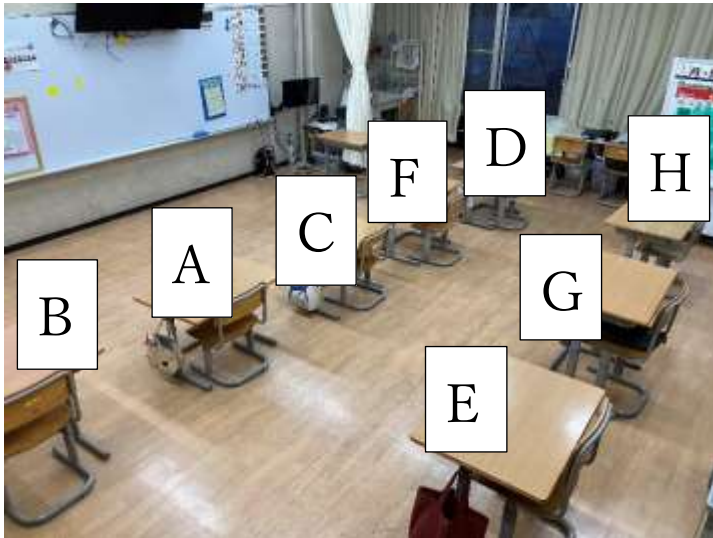
	学習内容	指導上の配慮事項/【評価】	教材教具/学習の様子
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめのあいさつをする。</li> <li>・本時の活動の内容を確認する。</li> <li>・本時の目標を確認する。</li> <li>・個別の目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やくそくをジェスチャーも合わせて確認する。 【知-④】【思-⑧】</li> <li>・個別の目標を確認する際に2つのグループに分かれる。 〈児童 E・G・H〉〈児童 A・B・C・D・F〉</li> <li>・iPad と G-Pen Blue を用意し、動画や画像で確認する。</li> </ul>	 <p>iPad と G-Pen Blue※</p>
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小麦袋バッグ・パン作りでのきまりを振り返る。</li> <li>1. 服装の確認 (発表者:児童 G・H)</li> <li>・スモック・マスクを身につける。</li> <li>・児童 G・H の身につけている様子を見て他児はできているかどうか評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知-④】【思-⑧】</li> <li>・体験を想起しやすくなるようにそれぞれの児童が発表する役割を担う。</li> <li>・発表する児童の写真をモニターで提示する。</li> <li>・「みる」「きく」について見たり、聞いたりしたことに対する発問に答えられたときにできていることを評価する。</li> <li>【知-③】【思-⑦】</li> <li>・T1 服装名称について、児童に問いかける。 「マスクをさわってください」 〈児童 G・H への支援〉 自発的に答えられない時には語頭音、モデルの順に言語支援をする。 答えるまで時間がかかる場合は、周囲の状況に応じてなるべく待つようにする。</li> <li>・見ている児童に服装がきちんと身につけら</li> </ul>	<p>※イラストや写真等の横に貼り付けたドットコードをタッチすると、あらかじめ登録された画像や動画が iPad (アプリ:ブルーリンカー) で再生されるペン型の機器 (Gridmark Inc.)</p>



	<p>2. 小麦袋バッグの取っ手 確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良品・不良品を見比べて良品を選択する。(A・B・C・D・E・F)</li> </ul> <p>3. 報告(検品の依頼) (発表者 児童 G・H)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小麦袋バッグをもち「できました。おねがいします。」という。</li> <li>・小麦袋バッグは両手で渡す。</li> <li>・児童 G・H の様子を他児が評価する。</li> </ul> <p>4. パン生地 of 成形 (発表者は時間に応じて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理用帽子・エプロン・マスク・手袋を身につける。</li> <li>・成形時のきまりを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・たたく</li> <li>・つまむ</li> <li>・おる</li> </ul> </li> <li>・パン生地を成形する。</li> </ul> <p>5. インタビュー動画確認 (発表者:児童 A・F)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>失敗したときの対応、工夫したこと、教えてもらった内容を確認する。</li> </ul>	<p>れているか発問する。「スモック・マスクが身につけられていますか？」</p> <p>【知-④】【思-⑧】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T1 不良品・良品を提示し、どちらが良品か発問する。</li> <li>「とってのうえにいとが ありますか？」</li> <li>「とってのうえにいとがあるのはどっちですか」</li> <li>・児童に「よくみる」ように促す。</li> <li>・使用した道具や材料の実物を提示する。</li> <li>・モニターに画像を提示する。</li> </ul> <p>【知-③】【思-⑦】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できた製品を検品してもらう時の言い方について発問する。</li> <li>・T1「なんといいますか？」</li> <li>・T2 へ検品の依頼をする児童を指名する。</li> </ul> <p>〈児童 G・H への支援〉</p> <p>自発的に答えられない時には語頭音、モデルの順に言語支援をする。</p> <p>答えるまで時間がかかる場合は、周囲の状況に応じてなるべく待つようにする。</p> <p>【知-④】【思-⑧】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成形時の指導内容を確認する。</li> <li>・成形時のきまりをモニターに提示する。</li> <li>・T2 が示範する。</li> </ul> <p>【知-④】【思-⑧】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画をモニターに提示する。</li> <li>・モニターをよく見て、話を聞くように促す。</li> <li>・失敗したとき・指導を受けた時への対応方法について児童 A・F を指名し自分なりの考えを発表するように促す。</li> <li>・答えられない時には、教員が仕事の工程の中で失敗したときのモデルを提示する。</li> </ul>	  <p>良品・不良品の比較</p>  <p>インタビュー動画</p>
<p>まとめ 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の目標の振り返りをする。</li> <li>・振り返りシートに写真を貼る。</li> <li>・振り返りシートに文字で記入する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の学習内容を確認する。</li> <li>・終わりのあいさつをする。</li> </ul>	<p>【知-④】【思-⑧】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を選択して貼るように促す。</li> <li>・児童の実態に応じて文字で記入する／シールを選択肢に貼るように促す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の学習内容をモニターにスライドで提示する。</li> </ul>	 <p>振り返りシート</p>

### 3. 環境設定

#### (1) 教室環境(まとめ)



(導入・展開)席は当日の流れに応じて順不同(椅子背面にA~Hまでに表示をします。)



#### (2) 提示資料(抜粋)

<p>やくそく</p> <p>① みんなといっしょに </p> <p>② よくみる よくきく </p> <p>③ あんぜん </p>	
--	--

4. 個別の実態・目標・手立て・評価 （評価レベルは後述 評価のおよその目安 を参照）

生徒	本時に関わる実態	目標	手立て	評価レベル
3年 児童 A	自分のペースややり方にこだわる ことがあり、その要求が通るとスム ーズに行動することができる。	④良品・不良品のバッグの取っ手を見比べて、良品を 選択することができる。	使用した道具や材料の実物を提示する。 モニターに画像を提示する。	4
	他者に指摘されたり思った通りで きないと机に突っ伏したり集団活 動への参加が困難になる。	⑧インタビュー動画をみて、失敗したり間違ったりした 時の行動について考えて答えることができる。	答えられない時には、教員が仕事の工程の中で失 敗したときのモデルを提示する。	2
3年 児童 B	興味関心が高いことに関してイラスト や写真をみて答えることができる。	④良品・不良品のバッグの取っ手を見比べて、良品を 選択することができる。	使用した道具や材料の実物を提示する。 モニターに画像を提示する。	4
	興味関心が薄くなるとトイレに行こ うとしたり自分ができる活動(プリン ト)を出してやろうとしたりする。	⑧自分自身がきまりに沿って取り組んでいる写真を 選択する。	きまりに沿ってできている写真・できていない写真を 比べられるように注目すべき点にシールを貼り確認 できるようにする。	3
3年 児童 C	教員の発問に対しては必ず挙手を するなど学習活動には意欲的に参 加することができる。	④良品・不良品のバッグの取っ手を見比べて、良品を 選択することができる。	答えの一部しか発音しない場合は、一音ずつ区切っ て音のモデルを提示する。最後に単語を続けて発音 し、言語モデルを提示する。	3
	発語が少しずつできるようになっ てきており、一音ずつ区切って聞くこ とで発音することができる。	⑧自分自身がきまりに沿って取り組んでいる写真を 選択する。	きまりに沿ってできている写真・できていない写真を 比べられるように注目すべき点にシールを貼り確認 できるようにする。	3
3年 児童 D	決められた手順を理解し、行動する ことができる。	④良品・不良品のバッグの取っ手を見比べて、良品を 選択することができる。	使用した道具や材料の実物を提示する。 モニターに画像を提示する。	3
	興味関心の幅がせまく、注意を持 続させることが難しい。	⑧自分自身がきまりに沿って取り組んでいる写真を 選択する。	きまりに沿ってできている写真・できていない写真を 比べられるように注目すべき点にシールを貼り確認 できるようにする。	3
4年 児童 E	発語はないが、日常生活に関わる 簡単な言語指示は理解できる。	④良品・不良品のバッグの取っ手を見比べて、良品を 選択することができる。	使用した道具や材料の実物を提示する。 モニターに画像を提示する。	3
	動作するまでに時間がかかるこ とがある。	⑧自分自身がきまりに沿って取り組んでいる写真を 選択する。	きまりに沿ってできている写真・できていない写真を 比べられるように注目すべき点にシールを貼り確認 できるようにする。	3

4年 児童 F	自分のペースややり方にこだわる ことがあり、その要求が通るとスム ーズに行動することができる。 他者に指摘されたり思った通りで きないと机に突っ伏したり集団活 動への参加が困難になる。	④良品・不良品のバッグの取っ手を見比べて、良品を 選択することができる。	使用した道具や材料の実物を提示する。 モニターに画像を提示する。	4
		⑧インタビュー動画をみて、失敗したり間違ったりした 時の行動について考えて答えることができる。	答えられない時には、教員が仕事の工程の中で失 敗したときのモデルを提示する。	2
4年 児童 G	教員と一対一で言葉かけや身体 援助を受けたり自分の好きなもの を介したりすることで周囲に求めら れる行動が分かるようになってきて いる。 指示から動作するまでに時間がか かることがある。	③場面に応じた挨拶や要求の言葉、教員の発問に対 して教員と一緒に音声や身振りで伝える。	自発的に答えられない時には語頭音、モデルの順 に言語支援をする。 答えるまで時間がかかる場合は、周囲の状況に応 じてなるべく待つようにする。	欠席のため本時の 評価機会なし
		⑦教員と一緒にマスクを身につけ、事前に提示され た発表の時間つけ続けることができる。	マスクをつける前に言葉かけをする。 マスクに手をかけて外そうとした時は手を添えて外 そうとする行動を止める。 発表が終わったら外すことを事前に言葉かけをして 外す。	欠席のため本時の 評価機会なし
4年 児童 H	具体物やイラストをみて音声で答 えることができる。 本人にとって初めてのことや失敗し そうな行動は確認する時間が必要 である。	③場面に応じた挨拶や要求の言葉、教員の発問に対 して教員と一緒に音声や身振りで伝える。	自発的に答えられない時には語頭音、モデルの順 に言語支援をする。 答えるまで時間がかかる場合は、周囲の状況に応 じてなるべく待つようにする。	4
		⑦教員と一緒にマスクを身につけ、事前に提示され た発表の時間つけ続けることができる。	マスクをつける前に言葉かけをする。 マスクに手をかけて外そうとした時は手を添えて外 そうとする行動を止める。 発表が終わったら外すことを事前に言葉かけをして 外す。	4

・本時では、児童 G、H は (8) 生活や出来事の伝え合い、児童 A～F は (9) 自分の成長について主な目標として挙げているが、

児童 G、H の (9)、児童 A～F の (8) の目標については、他の小単元で目標にしている。

・主体的に学習に取り組む態度については、単元全体を通して評価を行う。



評価についてのおよその目安 全校研究資料段階の考え方と連動

評価レベル	1	2	3	4	5
	評価規準に迫る様子がみられない	1段階の目標を達成したと想定する姿	2段階の目標を達成したと想定する姿	3段階の目標を達成したと想定する姿	3段階の目標を越えたと想定する姿
観察された姿	行おうとしない	視線を向ける 行おうとする 教員と一緒に進む	教員を模倣して言葉や動作で表現する 選択肢から選ぶ 教員に依頼して一緒に進む	教員の促し(問いかけやジェスチャー)を受けて進む 選択肢を手がかりに自分の言葉で答える	自発的に取り組む 想起して答える 言葉や動作で具体的に表現する

③相手や目的に応じて、言葉や身振りなどの伝え方があることに気が付く。

1	2	3	4	5
注目しない。 言葉かけに応じない。	教員の発問に対して教員と一緒に身振りで答えることができる。	教員の発問に対して、教員の語頭音や選択肢の提示から言葉や身振りで答えることができる。	教員の発問に対して、言葉や身振りで答えることができる。	教員の発問に対して、複数の伝え方を組み合わせて答えることができる。

⑦相手や目的に応じて、丁寧な伝え方を選んで伝えることができる。

1	2	3	4	5
注目しない。 言葉かけに応じない。	教員の呼びかけに応じて発表する場に立つ。	教員の言語モデルを聞いて模倣することができる。	語頭音を聞いて適切な表現を答えることができる。	教員の問いかけに対して場に応じた適切な表現を発表する。

④写真や動画を確認し、目標に対する行動について答えることができる。

1	2	3	4	5
注目しない。 言葉かけや身体ガイダンスに応じない。	教員の言語モデルと身体ガイダンスを受けて写真や動画を見る。	写真や動画をみて、教員の言語モデルを受けて提示された選択肢から答えることができる	写真や動画をみて、できた、できなかったを答えることができる。	写真や動画をみてできた、できなかったことと内容を具体的に答えることができる。 できた点、できなかった点にシールを貼って伝えることができる。

⑧決まりに沿ってできた、難しかった、できるようにするための方法を考え、言葉や動作で表現する。

1	2	3	4	5
注目しない 言葉かけや身体ガイダンスに応じない	教員の言語モデルと身体ガイダンスを受けて写真や動画を見る	写真や動画をみて、教員の言語モデルを受けて提示された選択肢から答えることができる	写真や動画をみて、難しかったこと、外部講師から教えてもらったことを答える／動作で表現することができる。	写真や動画をみて難しかったこと、外部講師から教えてもらったことを具体的に答える動作で表現することができる。

※授業内だけでなく、日常生活や家庭での発言や表現しようとする姿も評価の対象とする。